

群馬県立太田高等学校 学校評価一覧表①（令和3年度版）（様式1）

羅針盤			方 策	第1回点検評価		第2回点検評価		
評価対象	評価項目	具体的数値目標		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等
I 特色ある学校作り に努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 学校に対し、好きだと感じている生徒が、80%以上である。	○大規模伝統校としての良さを、生徒同士も感じられる学校づくりを行うため、ランドデザイン等を共有しながらの統一した指導をさらに努める。また、多様な価値観のある生徒がいることを職員間で共有し、より深い生徒理解を実践する。 ○コロナ禍の折り、個々にコミュニケーションを取り、それぞれの生徒の要望に対応する準備を常に行い、対面の学習指導の減少に備える。	B	A	○95.3%の生徒が「学校が好き」と回答している。学校行事の制約や、部活動の大会の縮小などにも柔軟に対応し、今できることに集中する姿勢が身につけ始めている。非常時こそ学校に対する信頼感を失わせぬよう生徒の実態を把握し、適切な指導が行えるよう環境整備し組織として取り組んでいく。 ○休校や分散登校に備え、ICTを駆使し教育活動が遅滞なく継続でき、生徒、家庭からの相談にも即座に対応できるようハード、ソフト両面で環境整備していく。		
		② 3年間を見通した系統的・計画的な学習指導・進路指導により、第一志望校への合格率80%以上、国公立大学合格者数150名以上である。	○学年・教科・探究キャリア教育係・進路指導部が連携して、学校として統一のとれた3年間を見通した進路指導体制を確立する。 ○学力向上や進路(キャリア)に関する意識が高められる内容を検討したうえで、各学年ともに適切な進路やキャリア教育的な行事を実施する。特に、面談・学年集会等を通じて高い志の維持や第一志望への強い拘りが持てるように早期からの系統的できめ細やかな指導を実践する。 ○他校との情報交換・外部機関の研修会への参加を通して、進路実現に向けた授業改善、進路行事の精査・改善を推し進める。	B	B	○昨年の本校の進学実績に「十分満足できる」、「満足できる」と回答している生徒は約90%、保護者は約80%で、近年の本校の教育活動や進学指導は一定の評価を得ていると感じている。今後も時代のニーズに合わせた教育活動を考え実践していく。 ○コロナ禍で学習や学校行事の機会が制限される中、オンライン配信による授業の実施やオンラインを活用した講演会やインタビューなどを行った。機器の操作等に慣れていない職員もいるなかで、現在学校でできる範囲の工夫を凝らして進路行事や探究活動支援に尽力をし、今後も教育の質を落とさない努力を行っていききたい。 ○進路情報の提供が「十分されている」、「されている」と答えた生徒は約95%と高いが、保護者は約69%であった。保護者への情報提供の機会を増やしていきたい。		
		③ 部活動加入率が各学年90%以上で、この内80%以上が積極的な活動である。	○部活動顧問と担任との情報交換を適宜実施して生徒の活動状況を把握し、適切な状況下で活動ができるような環境作りを進めていく。 ○各部活動とも一段階上の目標を掲げるとともに、本校部活動指導方針に基づき、主体的・合理的・効果的・効率的な活動を行い、生徒の育成と実績の向上を図る。 ○正副顧問の連携を図ることで、生徒の安全確保に努めるとともに、職員のワークライフバランスにも配慮する。	B	B	○部活動加入率は目標数値を下回っているが、加入者の87%は積極的な参加となっている。未加入の生徒の状況を把握し、担任等と情報の共有を図る。 ○県高校総体は2年ぶりの実施となったが、一定の成績を残せた。また、硬式野球部が春は26年ぶり、夏は27年ぶりに4強に進出した。部活動方針に基づきながら、さらなる向上を図り、太高生の強みを生かせる計画的な部活動指導を継続していく。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業に満足している生徒が80%以上である。	○60分授業を定着させ、時間配分等新たな課題に対して継続的に工夫・改善を図る。 ○新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の思考力と判断力、表現力の育成のために、引き続き主体的で対話的な深い学びを意識した授業を推進し、生徒の目標に沿った進路実現に導く。 ○互見授業(年間3期間)や研究授業(各教科年間2回程度)を通じて、各教員の指導力・生徒理解力の向上を図る。 ○各教科・科目において習熟度別対策をできる範囲で実施していく。	B	A	○授業内容に「満足」とする生徒は92.1%である。個々の生徒に応じた指導が展開されていると考える。一人1台パソコンの有効利用について情報部を中心に活用法を提案し研修を行うなど、教師が研究と修養に努めている。 ○新学習指導要領に基づく、指導と観点別評価の一体化について研修を行い、次年度1学年実施に備えられるよう準備している。 ○生徒の実態や大学入試科目等の諸状況を見ながら、授業コマ数、教育課程編成の検討をさらに深めていく。また、R4年度入学生から実施される新学習指導要領に基づく教育課程表を編成していく。		
		⑤ 進路実現に向けて実施している、補習・課外授業に満足している生徒が80%以上である。	○土曜課外の目標および目的の明確化によって生徒の学習意欲の向上を図るとともに、実施時期の適正化や実施内容の改善を推進する。特に、地歴・理科の実施や習熟度別課外の実施等、生徒の実態により即した内容となるように弾力的に活用する。 ○通常授業の充実を柱に、課外・補習の役割分担や位置づけを明確にし、それぞれを的確に補完させながら生徒全体の学力向上を図る。 ○課外・補習の実施状況や実施内容を定期的に検証し、生徒の満足度を高めていく。	A	A	○土曜課外について「良い」、「とても良い」と答えた保護者は89%であり、生徒では1年生が約80%、2年生が約76%であり満足度は高いといえる。 ○3学年の進学課外についても保護者の約87%が「良い」、「とても良い」と答え、生徒の約80%は「満足」、「大いに満足」と答えていて満足度は高いといえる。 ○授業第一主義を前提として、授業を補完する上で課外の重要性を伝えると共に、その実施教科や内容、指導方法についても今後更に検討する。		
		⑥ 総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習活動に満足している生徒が80%以上である。	○探究・図書部を中心に進路指導部・学年と連携を密にし、計画的・系統的な学習活動を実施する。特に1年生では、自校内における講演会やセミナー、外部機関への訪問等を通して興味関心を広げさせながら、自身の軸となる部分を見出せる教育活動を実践していく。2年生では設定した課題について調査や実験、研究活動が計画的に実施できるよう入念な準備期間を設ける。 ○生徒の主体的な学習の大事を教職員・生徒が共通理解し、探究・図書部が現代社会の諸問題に関わる各分野の良書を揃えるとともに、レファレンスサービスを行うことで積極的に援助する。	B	B	○総合的な探究の時間を通じて課題発見解決能力が「大いに高まった」、「高まった」と感じる生徒が、1年生は約85%、2年生は約72%であった。また、総合的な探究の時間の一環として行われる企業・研究所訪問(1年)、フィールドワーク(2年)の期待度が高い生徒の割合はそれぞれ約93%、約60%であった。探究活動やそれに付随する行事の企画内容や意図をしっかりと伝え、生徒自身が成長していると実感できるよう掛けた。 ○一方で、1・2年生の保護者には、「総合的な探究の時間」について内容が伝わってなかったり、生徒の成長を実感する場面がないようであった。学校からの発信力を高めて、保護者にも情報が伝わる努力が必要と感じる。 ○保護者、生徒、学校が様々な教育活動の情報や考えを共有し、3年間でのような活動を通してどのような力を育成していくかといった共通理解が更に必要だと考える。		
3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。		⑦ 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。	○学年団を中心に教科担任・クラス担任との連携に基づいた二者面談等を通じて生徒の状況を把握したうえで、学習法や目標設定など生徒への適切な支援をしていく。 ○学習に対する達成感を高めるために、各テストの目的・意義の明確化や記述・論述問題を適切に取り入れた作問の工夫を図っていく。 ○客観的な指標として模擬試験結果の分析を通じて中期的な育成課題を洗い出し、学習におけるポイント(学習方法や科目バランス)を明確にしていく。 ○個に応じた学習指導を展開するために、生徒の状況に応じた小グループでの指導や添削の学年横断的な取組を継続し、個々の教員の指導力向上を図り、生徒に還元する。	A	B	○面談の回数について全学年の保護者の90%以上が「満足」と回答している。また生徒については1、3年で90%以上、2年で85%の者が「満足」と回答している。面談に対する満足度は高いと考え、定期的な面談だけでなく生徒の様子や希望に応じて適切な面接指導を行うよう今後も心がける。また担任だけでなく教科担当や主任等も面談を行い、その情報を共有し個別の生徒への指導を充実させる。 ○課題については全学年の生徒の70%以上が肯定的であるが、生徒によっては負担に感じている者もいる。一律同じ課題だけでなく、生徒の能力や適性に応じて量や教科間のバランスを考慮することも検討する。 ○課外等も含め、個々の指導に対してはある程度満足できる評価を得ているが、学習に対する満足度は成績の占める要素が大きい。今後も高い目標を持たせつつ、面談等を通じて、個に応じた当面の目標設定を共有することで、達成感を高めたい。		
		⑧ 学習内容の定着等のために、家庭での1日当たりの平均学習時間は3時間以上である。	○予習・授業・復習の学習サイクルが習慣化され、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるよう、授業改善をさらに推進する。 ○主体的な学習者になるように、学年、教科が連携し課題の量や内容が生徒の実態にあうように改善を図る。習熟度によって課題の内容を分けることも検討する。また授業との関連や生徒の学習意欲の喚起にも留意し計画的に課題を課す。 ○生徒の進路意識を高めるため、進路講演会等の進路行事の改善や充実を図る。特に、「生徒にとって有益」を観点として、外部講師の活用と校内教職員による指導を適切に活用する。	B	B	○3時間以上家庭学習をしている生徒が1年では43%、2年では29%とまだまだ少ないと感じている。生徒がより積極的に学習に取り組めるよう課題や授業の予習、復習の仕方について考える。 ○学習時間だけに限らず生活時間の見直しといった根本的な指導についても検討する。スマホやタブレット等の利用についての指導も工夫が必要である。 ○コロナ禍での生徒向け、保護者向けの講演会は、オンライン等も活用して今後も実施していく。学年や時期等を考慮して講演内容や講師の選定を適切に行う。 ○英語4技能の指導の強化とともに英語外部資格試験の積極的な受験を促す。生徒だけでなく保護者への協力の要請も行う。		

III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めている」と認識している生徒が80%以上である。	○生徒会活動や学級活動を通じて、生徒主体のいじめ防止活動を実施する。 ○いじめ防止や早期発見のためには保護者とのつながりも重要であり、広報活動の充実をより一層図る。 ○「いじめ防止等の取組状況調査(生徒・保護者)」を通じて、本校の取組を検証する。	B	B	○朝の挨拶運動等を通じて、生徒の80%以上が学校としての取組を認知している。また、保護者の80%以上が「十分なされている」「なされている」との回答で、おおむね認知されている。今後も継続的に生徒・保護者への防止活動(含・広報)を実施していきたい。		
		⑩ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回程度行っている。また、生徒アンケートや学年分掌の情報交換を通して、いじめの発生防止と発見に努め、いじめの解消100%をめざす。	○適切な指導を行う前提として生徒に関する必要十分な情報を共有するために、月2回以上の学年会議と相談係会議を設定する。また、つまづきや不登校の予防的指導を重視し、定例会議の場に限らず日頃から教職員間の連携に努める。 ○いじめはどこの学校でも存在するという共通認識のもと、生徒アンケートや学年・分掌の情報交換を通し、いじめの未然防止を進め、発見したいじめには迅速に対応して、いじめの根絶を図る。	B	B	○1学期中の欠席率は0.8%、30日以上長期欠席者は2名であった。生徒の出欠状況をもとに、不登校傾向の生徒を把握し、定例の会議で情報を共有しながら、適切な対応を行っている。 ○1学期中にいじめと認知されたものは0件である。いじめの認知については、アンケート調査の結果は勿論のこと、担任との面談や日常の学校生活において、常にアンテナを高く対応していく。		
		⑪ 生徒会行事に満足感・達成感を持っている生徒が70%以上である。	○行事の企画や運営などにおいて生徒が主体的に取り組むことができるように、良識の範囲内で生徒に裁量権を与えて行動させる。 ○煌斌祭実施初年度になるので、生徒の主体的な活動をサポートしながらも、的確な指示を適切なタイミングで行うことを心掛け、充実感に満ちた行事とする。	A	A	○煌斌祭への参加態度は、生徒の90%以上が積極的に回答した。煌斌祭は新しい行事であったが、生徒が中心となって主体的に企画・準備・運営を行うことができた。 ○来年度の太高祭は、実施の方向である。行事間隔が開いてしまったため、実施に当たっては、効率的かつ十分な準備期間を設け、生徒に所属感、達成感を体感できる行事としたい。		
		⑫ 職員・生徒・保護者間のコミュニケーションを密にする取り組みを行うとともに、学校生活に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○各学期ごとの二者面談や三者面談の「ねらい」を明確化し、面談の成果をあげていく。 ○保護者の視点に立った情報発信を意識し、三者間の連携を密にする取組(三者面談・学年保護者会、保護者アンケートなど)を有効に活用して、相互信頼関係を構築し、透明性と安心感のある学校づくりを進めていく。	B	B	○通常の二者、三者面談に加え、登校不可の状況下でも、各ツール等を利用して生徒一人ひとりのコミュニケーションを大切に、生徒の変化を見落とさないよう心がける。また必要に応じて個別相談を積極的に行う。 ○保護者の82.9%が学校生活全般について生徒が積極的に取り組んでいると感じている。グランドデザインによる学校の取組の可視化とともに、メールやHP等を利用した情報発信によって、学校の指導に対する理解が深まるように努める。 ○休校や分散登校でもICTを活用し、生徒や保護者からの様々な相談に対応できるよう環境の整備をする。		
5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 家庭と連携をとりながら、(正当な理由でない)遅刻を0%にする。	○基本的な生活習慣の確立が、充実した学校生活の基盤であることを生徒に自覚させる機会を様々な場面で設け、自己管理能力を高める。 ○「家庭は生徒を送り出す、学校は生徒を迎える。」この関係性に基づいて、学校と保護者の信頼関係の構築を意識する。 ○交通安全指導・登校時指導を通し、ゆとり登校を心掛けさせ、遅刻者の自覚を促す。 ○「保健だより」を定期的に発行し、感染症などの予防や、生徒の体調管理に役立つようにする。	B	B	○1学期中の遅刻は1日平均3.5人(昨年4.8人)であった。集会や各HR等において、基本的な生活習慣の確立や学校中心の生活リズムの大切さを説明している。また、登校時の自転車事故防止のため、ゆとりある登校を促している。 ○生徒・保護者のおよそ95%が安全な登校を心がけていると回答しているが、年に数回苦情が寄せられている。全校集会等でモラル向上を訴えていきたい。 ○毎朝、担当教員数名が生徒昇降口に立ち、生徒の様子を観察し、声かけを行っている。 ○「保健だより」の発行を継続する。体育行事において生徒の健康・安全に十分に配慮した態勢を整える。			
	6 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑭ いじめと真剣に向き合い、常にいじめを許さない気持ちと態度で臨んでいる生徒が90%以上である。	○年間2回実施している「いじめ防止強化月間」で、のぼり旗等を利用した活動を通して、学校全体でいじめに向かわない集団を形成する。 ○「スマホ利用ルール」を周知し生徒・保護者を交えて再認識することで、SNSを介したいじめの未然防止に努める。	B	B	○いじめ防止活動を生徒会役員を中心として、年間計画に沿って計画的に実施していく。 ○本校の「スマホ利用ルール」を十分に理解させ、ネットトラブル等、十分に注意させていきたい。 ○生徒の95%以上が「いじめを許さない」との態度で臨んでいるが、継続的に指導を実施し、100%に近づける。		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が70%以上である。	○進路指導室や資料室を生徒が利用しやすいように整備し、必要な情報をタイムリーに得られるよう工夫する。 ○生徒及び保護者に対して進路情報を適切に提供できるよう努める。特に保護者会や三者面談の機会では情報を精査したうえで資料を準備する。 ○情報発信も、紙媒体、デジタル媒体(一斉メール、Classi、webページ)を場面に応じて使い分ける。 ○学習法等についても、進路部が学年団等を通じて生徒に提供できる情報をより整備する。	A	A	○全生徒の90%以上が学校からの進路情報が役に立っていると回答している。情報提供はタイミングが重要なので、部内で連携して効果的な時期に適切な情報提供を今後も行う。 ○昨年度から実施された大学入学共通テストについてや、英語4技能や資格検定の活用、主体性の評価についてなどの情報を適切に捉え生徒や保護者へ発信する。ここ数年受験制度の変化が大きくなるので、安心した学習や受験につながるような指導を心がける。進路部・学年・教科が連携したこの体制を継続する。 ○進路指導室・資料室を整備し、赤本、模試等の資料が活用できるようになっている。学習室も整備されより使い易くなった。全校生徒への活用を促していく。		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑯ 自らの進路について考え、日々の生活に取り組んでいると自己評価する生徒が70%以上である。	○探究活動の計画的な指導を充実させることで、進路指導・キャリア教育と連携した活動となるように整備する。特に、生徒の発達段階に合わせて自らの将来を見通せるように心がける。 ○自身の進路(キャリア)と高校生活が密接に関連していることを認識させ、学習や部活動などの場面で動機づける。 ○インターンシップ(社会への試行的参加活動)への積極的な参加を推進する。	A	B	○自身の進路実現に対して日々の生活に「十分取り組んでいる」、「取り組んでいる」と答えた生徒が、3年生が約95%、2年生が約82%であった。以下の3点を中心に、生徒へ意欲を喚起したい。 ○コロナ禍で当初の予定通りの活動がなかなかできないが、場当たりの行事にならないように3年間を見通した計画を再度検討し、実行していく。 ○担任との面談を実施することで客観的に自分を見つめ、学校生活の充実や進路(キャリア)の選択肢を増やしたり、自身の希望する進路の実現を図るよう支援する。 ○キャリアパスポート(ポートフォリオ)を活用し、日常的な授業や部活などの振り返りを充実させて、自分を見つめる機会を増やす。		
V 開かれた学校づくりを努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	○一斉メール・ホームページを活用したタイムリーな情報発信は保護者から高い評価を得ており、この体制を継続する。 ○新システムによるホームページ作成により、週1回以上の更新で、タイムリーな情報を発信する。	A	A	○保護者の85%が本校のホームページはよいと感じており、情報発信については保護者の84%が満足していると感じている。引き続き、見やすく、わかりやすいホームページの作成を心がけるとともに、タイムリーな情報発信を続けていく。また、ホームページ上から生徒への当日の連絡事項などが確認できるシステムを構築していく。		
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ オンラインによる教育活動を10回以上実施する。	○教職員が、ICTを活用した教育活動に取り組むやすいように校内の環境を整備していく。 ○校内の研究授業において、ICTを活用した授業の取り組みを推進していく。 ○校内において研修や意見交換会を開催し、有益な情報の共有を図る。	A	/	○夏休み中から、オンライン授業の実施に向けて体制を整え、2学期の分散登校開始から、ほとんどの授業においてオンライン授業を実施することができた。今後は、オンライン授業の充実に向けた情報交換、研修、環境整備等を行い、改善を図っていく。		
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	○学校行事や授業に関するオンラインのアンケートを積極的に実施する。 ○ICTでの連絡等を積極的に行い、ペーパーレス化の促進を進めていく。また、そのことに関して生徒・保護者の理解を得る。			○ClassiやGoogleFormsの扱いに教員・生徒ともに慣れてきており、日常的にアンケートを実施している。 ○会議などでのペーパーレス化も進んでいる。 ○保護者への連絡もメールが中心となり、ペーパーレス化が進んでいる。		